

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	伊万里市立大坪小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概	・2か年の活用向上研究指定事業の成果として、「思考力・判断力・表現力」を伸ばす取組が更に一歩深まった。また、市の漢字検定では94%の合格率。引き続き、児童の興味関心を高めながら、「わかる喜び」と「自分の成長」を感じ取れるような授業の創造に尽力する。 ・特別な支援が必要な児童については、教育相談担当や特別支援コーディネーターが中心となり、外部機関とも連携して、情報共有と組織的な対応を行うことができた。引き続き、多角的に児童を捉え、様々な選択肢から支援を行えるよう連携をとっていきたい。
-----------------	--

2 学校教育目標	「互いに認め合い、支え合う学校にしよう ～ 自己肯定感を高める教育を通して ～」 ◎めざす教師像 「深い教育愛に満ち、確かな指導力のある教師 ～ 支え合い、高め合う集団づくり ～ ※子ども一人一人の特性に応じて…」 ◎めざす学校像 「いきいき学び 伸び合う学校 ～ 当り前の事を、当り前に ～ ※自分の将来に希望を持って…」
----------	--

3 本年度の 重点目標	①「授業づくりのステップ1・2・3」「西部型授業」をもとにした授業スタイルについて研修を行い、授業の手立てとして学校全体での共通取組を検討する。特に、読解力、表現力の向上を図る具体的な手立てを構築する。(学習過程、書く活動の充実など) ②児童同士が良さを互いに自覚し合える学級集団づくりを行い、児童の学級への所属意識を高める。併せて、教育相談機能の充実により、児童、保護者の学校教育への不安感の払拭を図る。 ③新型コロナウイルス感染症予防のため、衛生週間の定着を図るとともに、学習形態の工夫、指導内容の重点化、学校行事の見直しを適宜行い、教育課程履修に漏漏のないように努める。
----------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	中間評価		最終評価		学校関係者評価				
			進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上。	B	・全教科において、授業で書く活動を設定することがほぼできている。算数科では、授業づくりや思考テストの実施などを受けて指導法についても十分共有ができています。国語科では、「条件に合わせて書くこと」等の書き方について、算数科では「図表・式・言葉に関連づけた説明」の書き方について、指導する。	B	・授業でわらいを焦点化し書く活動を設定することについて、本校独自アンケートを実施したところ、教師の肯定的な回答が100%、児童の肯定的な回答が約86%と、ともに、成果指標を十分にクリアしていることがわかった。今後も、継続して取り組む。 ・思考力テストの結果については、単元毎の平均10点満点中6.2点(国5.17点、算7.16点)で成果指標をクリアした。できていない問題については、確実に解説を行っていくとともに、授業改善に役立てるなどして、さらなる思考力向上を図る。	B	・県平均並みということであれば、一定の成果が得られているものと思う。 ・農業体験など体験的な学習がやりにくかったのではないかと、作業内容など今後考えていった方がよいこともある。	・学力向上対策 コーディネーター ・研究主任 ・副主任		
	○授業と家庭学習とのつながり	○毎日の家庭学習時間を確保させる。 ○「家勉」を推進する。 ○家庭学習調査を実施し、安定して家庭学習に取り組む児童を80%以上にする。	B	・校内研究会で家庭学習の位置づけについて共有し、各学年で実施できている。習慣が身につけられない児童、書き直しが必要な児童等についての個別の対応にも着手している。課題点としては、質的な分析だけではなく、量的分析も行うことである。それを受けて、今後の手立てを共有する。	B	・校内研究会で家庭学習の位置づけについて共有し、各学年で実施できた。習慣が身につけられない児童、書き直しが必要な児童等についての個別の対応にも着手していた。 ・中央廊下の掲示板に、家勉コーナーを設置し、各クラスの取組を紹介した。良い発信材料になり、参考にして取り組む児童がいたり、児童のノートを掲示することで、賞賛する場としても有効であった。 ・課題点としては、質的な分析だけではなく、量的分析も行うことである。今後の手立てを共有する。	B	・先生たちも頑張っていたに違いない。 ・授業の進め方や宿題の出し方については、もう少し、学校で足並みを揃えてもいいのではないかと。	・学力向上対策 コーディネーター ・研究主任 ・副主任		
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●体験活動を生かした心に響く道徳教育の充実を図る。	・「いのちの教育指導資料」や「伊万里っ子しぐさ」、「童謡歌集」を生かした授業を全学級で実践し、ボランティア活動や心を育む「家読」を充実させる。 ・全校で同じテーマの人権教室を各学年ごとに実施する。	B	・「伊万里っ子しぐさ」を朝の会や放送で取り上げ、復唱したり、確認したりして生活に生かすことができている。「いのちの教育指導資料」は、クラスの実態に応じて取り上げ、授業を行っている。「人権教室」では、児童の感想を友だち広場で取り上げていくことができた。	B	・様々な差別課題について授業を実践することができた。とくにコロナによる差別については全校で機会をとらえ、実践することができた。 ・コロナ禍の中で、「家読」や「童謡歌集」の実践は制限された。 ・人権教室については、テーマに沿って実施することができ、児童の考えが深まるることができた。	B	・相手を馬鹿にしたような態度はいじめにもつながるので、大坪小のみんなが、相手の気持ちを考えてような子どもたちであってほしい。	・道徳推進教員	
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていないと回答した教員80%以上。	B	・毎月「心のアンケート」を実施し、早期発見に努める。 ・保護者、担任、生徒指導主任、教育相談担当、級外などの連携を密にし、組織としての支援を充実させる。 ・学校いじめ対策委員会において、支援の具体的な方法について話し合う。	B	・「心のアンケート」を通して、児童の小さな声をくみ取っていくことができた。コロナ感染による差別がないように、人権教室で「共生」をテーマに全校で学習を深めることができた。人権教室の音読劇や、人権標語の取り組みも充実していた。	A	・保護者もアンケートなどには意見を書いているが、何か気になることがあったら、すぐに保護者に連絡してほしい。家庭と先生とで協力して子どもを見守っていききたい。	・管理職 ・人権・同和 教育担当 ・教育相談		
	◎志を高める教育	◎夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進。	A	・学校行事(体育大会や修学旅行等)や対外行事(相模大会や陸上運動大会等)、発表会(伊万里秋祭りや公民館祭り等)などを通じて、個人で目標をもたせ、それをバックアップすることで成功体験を積ませる。	A	・各行事を実施する際、事前に行事の意義を伝え、各学年に応じて、個人や全体での目標を設定した。目的意識を持って取り組むことができた。また、キャリアパスポート等を活用し、随時、振り返りを行い、事後の生活につなげていけるよう指導することができた。 ・学校行事と他教科との関連を図ることで、より一層、意識化が図れた。高学年ではさらに、行事運営の手段や方法を学び、自主活動につなげることができた。	A	・行事に対して目的を持たせるだけでなく、相手意識を設定することで意欲付けとすることができ、積極的な活動が見られた。また、活動後にお礼の手紙等をもらうことで達成感や達成感を味わうことができ、自己有用感を持たせる機会となった。 ・行事と教科を関連させることで教育課程の改善となり、関わる時間などの減少など、働き方改革につながった。	A	・新型コロナウイルス感染症予防のため、今年は子どもたちが元気に活躍する姿をなかなか見ることができなかった。来年は、もっと授業参観などを増やしてもらいたい。	・教務主任 ・関係学年主任
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・毎月20日の安全点検と、学期ごとに通学路の安全点検を実施する。 ・通学路については、保護者や地域の方にも危険箇所の確認をお願いし、危険箇所マップの改訂を行う。	B	・育友会の地区役員の方に定期的に通学路の危険箇所の点検を実施を依頼し、確認している。 ・月1回の交通当番の実施で、各場所の登校の様子等を確認している。 ・交通指導員の方と連携を取り、適宜、変更を行っている。	B	・育友会の地区役員の方に定期的に通学路の危険箇所の点検を実施を依頼し、確認できた。 ・月1回の交通当番の実施で、各場所の登校の様子等を確認して、共有できた。 ・交通指導員の方と連携を取り、必要に応じて、変更した。	B	・地区役員さんを中心に安全点検等は行っているが、上級生などに聞いてもらうと、さらによく分かるのではないだろうか。	・生徒指導主任	
●健康・体づくり	○衛生習慣の定着	○新型コロナウイルス感染症予防策を徹底する。	B	・保健委員会や放送委員会による呼びかけ、担任の先生による協力もあり、手洗いが習慣化してきた。 ・マスクはほとんどの児童は着用できているが、給食のあとや、昼休みの後などにマスクをつけ忘れていた児童もいる。 ・ソーシャルディスタンスを意識させても、実際は難しい。	B	・手洗いとアルコールによる手指消毒は、繰り返し指導することで習慣化してきた。また、放課後に教室等の消毒を行った。 ・マスク着用について呼びかけを行ってきたことで着用率は上がったが、正しい着用ができていない児童もいる。 ・ソーシャルディスタンスの保持は授業中は意識させているが、絶えず意識続けることは児童にとっては難しい。 ・換気を常時行うことができた。	B	・新型コロナウイルス感染症予防のため、学校もいろいろ努力してもらっているが、家庭でも気を付けている。 ・教室の消毒など、学校の先生で大変であれば、育友会や家庭に協力を求めているのではないかと。	B	・養護教諭 ・保健主事	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	・定時退勤日、学校閉庁日を設定する。 ・主任業務の分散化や複数担当化を図り、業務の平準化を推進する。	B	・中間評価の時より、時間外勤務時間の平均が45時間を超える職員が減り、超過時間も少なくなってきた。 ・GIGA School構想やプログラミング学習の導入により、ICT推進リーダーの業務が増加してきた。その業務の分散化・複数担当化ができなかった。	B	・今年は先生方もいろいろ大変だったと思うので、休めるときは休んで、体を大切にしてもらいたい。	・管理職	
○業務改善プロジェクトの実施	○勤務体制の検討を行い、業務の明確化を図る。 ○具体的な改善策を実行し、業務の効率化を図る。	・業務改善案を計画し、職員に提案する。 ・職員研修で日常業務の在り方や、業務改善の取組について話し合う。 ・仕事の可視化と業務の省力化に取り組む。	C	・改善が必要な業務とその解決策を、職員から洗い出してもらった。日常業務のあり方についての意識化が少しずつできてきている。今後、それに関する職員研修を行い、業務の改善に取り組む。	B	・職員から出された、改善が必要な業務とその解決策について、年度内にできることについては、解決できた。新年度に向けての対策について、年度末反省の中で、改善策について検討する。	B	・先生方もいろいろな仕事があるので、なかなか効率化は難しいと思うが、育友会や各家庭と協力したら、改善できるのではないかと。	・管理職		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	中間評価		最終評価		学校関係者評価				
			進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
○教育相談の充実	○教育相談に係る組織の活性化(他機関との連携)及び、支援会議の充実による具体的な支援策の構築	○保護者面談の他、医師、カウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保健師、民生委員等関係機関との連携に努める。	B	・教育相談に係る担当者の連携を図り、支援会議の円滑な運営を図る。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の外部機関の効果的な活用など、教育相談機能の充実を図る。	A	・SCによる教育相談を広く知ってもらうために、「ほっとタイム」を発行し、困り感のある保護者や児童に啓発を行った。 ・教育相談後にカンファレンスを必ず行い関係職員の情報共有とこれからの対応を話し合った。 ・関係機関との連絡を取り、担当医との面談をした。	A	・子育てに悩む保護者もいることと思うので、今後、さらに保護者のニーズに応えるようにしてほしい。	・教育相談担当		
○特別支援教育の推進	○児童の実態に即した具体的な支援の内容・方法の策定	○児童の実態に即した具体的な支援を行い、よりよい学校生活への適応を図る。	B	・学校全体の支援体制を整備する。 ・児童の実態を把握し、ケース会議等で対応について協議・共通理解をする。 ・校内支援委員会の定例開催により、児童の現状を確認し、支援の方法を考え実践する。	B	・職員間の共通理解の場を設定し、支援が必要な児童について支援員配置などを行った。 ・担任からの情報収集、参観で実態把握をし、協議等の話し合いの機会を設けた。 ・個別の支援・指導計画の作成を行った。	B	・職員間の共通理解の場を設定し、必要に応じて共通理解を図った。支援が必要な児童について支援員配置を行いたくとも人員が足りず十分な支援ができないことがあった。 ・情報収集や実態把握は適宜行えた。 ・学期ごとに個別の支援・指導計画作成の呼びかけをして記入の時間を設定し、指導に生かせるようにした。	B	・いろいろな子どもたちがいるので、大坪小学校の全員が楽しく学校生活を過ごせるようにしてほしい。	・特別支援教育 コーディネーター
○「ふるさと学習」の充実	○地域の良さを体感できる学習の充実	○校区内や周辺に存在する社会教育施設や優れた教育資源を活用し、大坪町を誇りに思う児童の割合を前年度より高める。	A	・図書館を使った「調べる学習コンクール」へ積極的に参加する。 ・地域の祭りや伝統、地域の偉人からの学び、鼓笛隊などの活動を充実させる。 ・地域への関心を高める、魅力ある事業を企画する。	A	・夏季休業中の家庭学習での取組を担当の先生方の呼びかけをしていただき、多岐応募できた。調べ学習の方法を学んで、興味関心があるものの調べ学習をすることができた。 ・生活科や総合的な学習の時間の中で地域の特色や人々の思い等を知り、郷土の良さ、自分たちのふるさとへの関心を高めることができた。 ・コロナ禍の現状で活動に制限があったが、その中で鼓笛など、学校の取組を地域に発信することができ、子ども達も達成感を味わうことができた。	A	・長期休業や日ごとの家庭学習の中で郷土について学ぶ機会を設定することができた。また、教科の中でも、郷土の偉人や地域について、体験を通して学ぶことができ、「ふるさと」に対する思いを持たせる機会となった。 ・鼓笛隊については少ない発表の機会だったが、日ごとの練習にも熱心に取り組む姿が見られ、自主的な活動となっている。さらに、下級生にとっても「伝統」を引き継いでいくという意識付けがなされた。	A	・図書館を活用した「調べる学習コンクール」は、大坪小の児童がたくさん応募していた。これからもどんどん市民図書館を利用してほしい。 ・鼓笛隊は、演奏を披露する場が少なくて残念だった。ほかの学年も、活躍の場が少なくなっているので、児童が活躍できる場の確保を考えていただきたい。	・学年主任 ・教務主任

5 総合評価・ 次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・学習指導については、学習状況調査結果などから判断して一定の成果を収めることができた。今後は、タブレットPCを活用した授業を行う中で、児童の思考力、表現力を高めるようにしたい。 ・新型コロナウイルス感染症予防による学習活動の制約から、児童が達成感を得る場面が少なかった。次年度は達成感を得られるような活動を工夫したい。 ・いじめ防止については、普段の学校生活での指導が大切になることから、「伊万里っ子しぐさ」、「命の教育指導資料」などを活用し、思いやりの気持ちを育んでいきたい。
--------------------	---